

## 平成 30 年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果

(平成 31 年 1 月 31 日現在)

## 1 犬と猫の寄生虫調査

- (1) 検体採取期間 平成 30 年 4 月から平成 31 年 1 月まで
- (2) 対象及び規模 犬 14 頭(延べ検体数 14)、猫 43 頭(延べ検体数 56)の糞便  
犬 8 頭、猫 29 頭の虫体
- (3) 方法 直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定  
解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定
- (4) 結果 糞便検査

検体	検体数	陽性数	%	寄生虫
犬糞便	14	0	0.0	
猫糞便	56	7	12.5	猫回虫(6)、イソス <sup>ラ</sup> 属(2)
虫体の確認				
検体	検体数	陽性数	%	寄生虫
犬	8	0	0.0	
猫	29	10	34.5	瓜実条虫、猫回虫、猫条虫 (10) (3) (1)

## 2 犬と猫のダニ媒介性 SFTS (重症熱性血小板減少症候群) ウイルス抗原モニタリング調査

- (1) 検体採取期間 平成 30 年度 7 月から同年 12 月まで
- (2) 対象及び規模 犬 10 頭の血清、唾液、猫 9 頭の血清、唾液
- (3) 方法 リアルタイム PCR による抗原検査
- (4) 結果

	血清			唾液		
	検体数	陽性数	%	検体数	陽性数	%
犬	10	0	0.0	10	0	0.0
猫	9	0	0.0	9	0	0.0
計	19	0	0.0	19	0	0.0

## 3 猫を用いた新たな脳摘出法の検討

狂犬病臨床研究会および国立感染症研究所獣医科学部の助言・指導の下、開始した。

- (1) 検体採取期間 平成 30 年 4 月から平成 31 年 1 月まで
- (2) 対象 猫 20 頭
- (3) 方法 剖検による脳の摘出
- (4) 結果 「ニッパーを用いた小型動物の開頭方法の検討」の開発